

# 射水市作品コンテスト 優秀者35名表彰



▲夏野元志委員長より一人ひとりに賞状が贈られました。

いみずこうせいほご

# 射水更生保護

発行編集 射水保護司会  
会長 江尻 昭

TEL 0766-51-6625  
〒939-0284  
射水市新開発410番1  
射水市福祉保健部  
地域福祉課内

## 第68回「社会を明るくする運動」 地域のチカラが犯罪や非行を防ぐ

テレビや新聞では、毎日のように事件(犯罪)のニュースが報道されています。安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすためには、どうすればよいのでしょうか。取締りを強化して、罪を犯した人を処罰することも必要なことです。しかし、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることもまた、とても大切なことなのです。

立ち直りを支える家庭や地域をつくる。そのためには、一部の人たちだけでなく、地域のすべての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があります。(法務省ホームページより)

### 今年も作品コンテストを実施

副学校部会長 表隆夫

第68回「社会を明るくする運動」の一環として、今年も作品コンテストを実施しました。5月下旬より募集の準備に入り、6月上旬に各小中学校に募集呼び掛けました。

学校部会を中心に、地域とかわりの深い保護司の方に募集作業をお願いしてきましたが、今年度は、それぞれの

保護司と学校のつながりがさらに深まる活動となりました。

優秀作品を作品コンテストの表彰式に先駆けて10月29日から11月19日までの間、射水市役所でパネル展示しました。

また北日本新聞の取材を受けたり、射水ケーブルテレビで表彰式の様子が放映されたりして、市民に保護司の活動の一部を知ってもらおう意味でも、大変意義深いものになりました。

### 応募総数が1,626点となる

9月上旬に、作品受け取りのため担当保護司が各学校を訪問しました。射水市内の全ての小学校15校、中学校6校から応募があり、総数は前年を200点以上うまわる1,626点となりました。(作文740点、ポスタ1310点、標語576点)

**更生保護サポートセンター射水**

〒939-0234 射水市二〇1081番地  
旧大門町舎 車庫棟2階

電話：0766 (52) 7696  
FAX：0766 (52) 7697

E-mail  
imizuhogoshikai@gmail.com

ホームページURL  
hogosi.com

月曜日から金曜日 /  
午前9:30～午後3:30まで

※保護司が交代で常駐しています。

各学校にお願いして、作文・ポスター！  
標語をそれぞれ3点まで絞って提出していただきましたが、それでも集まった作品は膨大な数となりました。

優秀作品の選考は、9月10・11日の両日に、学校部会・三役・有識者がサポートセンターで実施しました。

作文においては、普段の生活の中に見出したテーマが多く、いずれも甲乙つけがたいものでした。またポスターでは、描画の技巧の高さに感心させられ、また絵に温もりが感じられるものが多くて選考に苦慮しました。

### 高周波文化ホールで 表彰式を開催

11月24日に、高周波文化ホールにて、優秀作品の表彰式を開催しました。

始めに「社会を明るくする運動」推進委員長の夏野元志射水市長の挨拶、続いて高橋久和市長による来賓の挨拶がありました。また、前川洋富山保護観察所長にもお言葉をいただきました。授与式では、作文の部11名、ポスターの部12名、標語の部12名が表彰されました。

記念撮影のあと特別出演として、小杉南中学校2年の北林愛里咲さんの生活体験発表がありました。北林さんは、富山県中学生生活体験発表大会に射水市代表として出場し、日本放送協会

富山放送局長賞を受賞されました。

また優秀作品の作文のうち、富山県の選拔選考会に推薦された4人の児童生徒に作文を発表していただきました。

視線を下げずに、原稿をほぼ暗記した状態で発表する子どもがいるなど、学校や保護者の方の援助が垣間見えて、頭の下がる思いでした。

※中学生生活体験発表大会の優秀作品と、射水市作品コンテストの優秀作品を掲載し、毎年作品集を発行。関係機関・団体、コミュニティセンターにお届けしています。



### ◇作文の部 (11名)

(県推薦作品)

- 放生津小学校 6年 高嶋 花恋
- 堀岡小学校 6年 浦山 阜
- 新湊中学校 2年 河上 皓汰
- 新湊南部中学校 2年 渡辺 陽与
- (市優秀作品)
- 片口小学校 6年 柴田 碧衣
- 金山小学校 6年 浦口 結衣
- 太閤山小学校 6年 荒木 愉陽
- 大門小学校 4年 奥 亮徳
- 射北中学校 3年 水門 裕策
- 射北中学校 3年 金岡 彩
- 小杉南中学校 1年 大坪 結愛

### ◇ポスターの部 (12名)

- 堀岡小学校 5年 堀川 由愛
- 金山小学校 6年 水上 董
- 歌の森小学校 5年 木村 悠暉
- 歌の森小学校 5年 荒井 春妃
- 歌の森小学校 5年 佐伯 あみ
- 大島小学校 5年 石灰 良丞
- 大島小学校 5年 高橋 輝
- 下村小学校 6年 野上 琴那
- 新湊南部中学校 3年 川辺 涼乃
- 小杉中学校 3年 沖 夏子
- 大門中学校 2年 稲垣 綾音
- 大門中学校 2年 前田 祐那
- ◇標語の部 (12名)
- 放生津小学校 5年 若林 史奈
- 放生津小学校 4年 若林 里咲

### 加賀保護司会来訪

12月7日10時、サポートセンター水に加賀保護司会より大杉欽一郎会長とお二人の副会長をお迎えしました。加賀市は、平成17年10月、旧・加賀市と山中町が合併して発足し、保護司定数は57名だそうです。

「社会を明るくする運動」の活動内容や、サポートセンターの運営についてなど、情報交換を行いました。

合併前の  
新湊保護司  
会と合同研  
修会を行な  
った御縁も  
あるとのこ  
とで、今後  
の交流も楽  
しみに散会  
しました。



- 新湊小学校 3年 岡田 心音
- 作道小学校 4年 舘 拓夢
- 塚原小学校 6年 帯刀 和心
- 堀岡小学校 4年 棚田 武蔵
- 東明小学校 3年 宮崎 航亮
- 小杉小学校 5年 倉田 絢夏
- 小杉小学校 5年 平野 夢大
- 金山小学校 6年 宮林 眞子
- 中太閤山小学校 1年 石黒 瑞葵
- 大島小学校 6年 白石 桃子

# 「ダメーゼツタイ！」 小学校で薬物乱用防止教室

副学校部会長 澤英明

本年も小杉・大門・新湊のライオンズクラブとの合同事業として、小学校13校の協力を得て、薬物乱用防止教室が実施されています。対象は6年生ですが、小規模校では5・6年生が受講するため隔年実施する学校もあります。

本年は、ライオンズクラブが7校、保護司会が6校を担当することになりました。6月21日の新湊小学校をスタートに、2月13日の大島小学校まで計画されています。開催当日は、担当保護司と共に、校区の保護司が参加し、担当区の小学生の学習の様子を見守っていくことになっています。

近年、来日外国人密売グループが、暴力団と結託して組織化、巧妙化する傾向を一段と強めており、更なる薬物の国内への持ち込みが懸念されます。

インターネットや携帯電話、宅配便を利用するなど手口が益々潜在化の傾向にあり、誰にでも手に入ると言われるほどに、急速に私達の身近に薬物が忍び寄ってきています。

環境調整の中で「外人の密売人が、名古屋から薬を売りに射水に来た。」という話を聞いて、ターゲットが定まれば、確実につなぎを取るために地方に出向くこともあり得ることやなずくと共に、魔の手が私の背後まで来ている事実、背筋が凍り付くような恐怖を感じました。

平成28年度東京都内では約337kgの薬物が押収(内覚醒剤316kg)され、検挙者は2,225人(内未成年者59人)と報告されています。また、止めたくても止められない負のスパイラルが、二次的な犯罪や健康被害を引き起こす事例が多発し、深刻な社会問題になってきています。(警察庁ホームページより)

反抗期や悩み多き青年期。快楽を得られるという甘い言葉の誘惑についつい好奇心をおこし、ダイエットやファッション感覚で薬物を使用したり、薬物乱用に対する規範意識の低下や危険性・有害性についての認識不足から安易に友人の誘いに乗って、薬の魔の手に引き込まれ、心身共に蝕まれていく若者が出現するのしたら、なんとしても薬物から身を守る手立てを覚えておかなければなりません。小学生の段階で、薬物の恐ろしさを知り、長い人生で初めて薬物との接触の場が訪れたとしても、その時に、「ダメーゼツタイ！」と言える人間に育てておくことが、日本を背負う子らを守ることに繋がる。それが、保護司会が主催する薬物乱用防止教室の大きな願いなのです。

# 研修会・自主研修会について

研修部会長 瀧内 一雄

定例研修として、「保護観察・生活環境の進め方」「発達障害・精神障害対象者の処遇について」「専門的処遇プログラムについて」の3回が終了し、第4期の「事例研究」を残すのみとなりました。自主研修では2人の保護司の方にフリーテーマで話をいただきました。1人は住職になった経緯や活動・行事について話をいただきました。住職とは無縁の方が住職となつた経緯、活動の苦労話が紹介され、思わず聞き入っていました。もう1人は保護司となつて日が浅いため苦労している話が紹介され、先輩保護司からは体験をふまえた多数のアドバイ



▲講師 志村 慧雲 保護司



▲講師 孫田 文夫 氏

る自主研修では元警察官の孫田文夫さんによる「保護司として知っておくと活用できる正しいアルコールの知識」と題し適正飲酒で心と体の健康管理や、厳罰化だけではなくならない飲酒運転について話をいただきました。今年も長きにわたって一緒に活動した方が退任され一抹の寂しさを感じる方、新任保護司の方々と一緒に研修を重ねて行くことを楽しみにしています。研修部会長としては、2月に名古屋で開催される中部ブロックSST(ソーシャルスキルズ・ネットワーク)普及事業「事例解決に役立つSST研修」に参加する予定です。

# 射水市更生保護女性会だより

## 更生保護女性会員 中央研修に参加して

はじめに、法務省保護局長のお話を聞きました。今政府の重要課題は再犯防止です。平成28年12月に「再犯防止推進法」が成立し、今年「再犯防止推進計画」が出されました。犯罪者の再犯を止めることが、国全体の犯罪を減少させることに効果的でその必要性が高まっています。

刑法犯で検挙された人のうち、約半数は前にも検挙されたことのある人たちです。また、刑務所を出た人のうち4割の人が5年以内で再び刑務所に戻ってくるという状況です。それだけ一度足を外してしまった人が、社会に戻り生きていくことが難しいということです。罪を償って地域に帰り、そこで暮らしていくのだから、「おかえり」と迎えてあげなければ、立ち直り生きていくことができません。社会の中で温かく見守り地域の方で支えていくことが「更生保護」です。私たち更生保護女性会への期待も高まっています。

もちろん「犯罪防止」も大切です。犯罪のない安心・安全な明るい社会を目指

し、更生保護関係者だけでなく、地方公共団体、地域の皆さんと連携を図りながら取り組んでいくことが大切です。

まず、多くの人にこういう活動を知っていたら、理解する人を増やし、私たちと共に「ほっとけない」「支え愛」「共に生きる」このような心を持って「あなたはひとりぼっちじゃないよ!!」と伝えていけたらいいですね。

さまざまな行動でも、一人ひとりの力が集まって大きな力が働くと思います。むつかしいことを考えなくて、自分にもまず何ができるか意識することから始めませんか。いろいろな方のお話を聞くたびに、多くの心を動かされる出会いがあります。

私たち更生保護女性会の話し合ひもそうだと思います。今年もどうぞよろしく願っています。小井孝子

## 市更生保護女性会全体研修会

日時 平成31年2月4日(月)  
場所 射水市役所3階302会議室  
内容 《講演》  
演題「あつたか家族応援プロジェクトへの期待」

講師 射水市教育長 長井 忍氏

## 市更生保護女性会理事 研修会に参加して

11月9日、市役所ロビーに集合し、兩空を心配しながらの出発でした。

まず、富山土人形工房で2019年の干支の「イノシシ」や「招き猫」「抱き雛」など銘々にお手本を前に、思いを精いっぱい込めて、仕上げました。昼食までのわずかな時間でしたが、思いがけずの青空に、呉羽山の紅葉を愛で、五百羅漢とお会いし、茶室でお抹茶をいただくこともできました。また、新幹線を山の上から全体像を眺めることもできました。昼食は、「万里摩理富山店」で富山菓膳、ご膳をおいしくいただきました。

その後、研修場所である富山少年鑑別所へと向かいました。職員の方から少年審判と処遇の流れの説明を聞き、在所者の生活現場を見学させていただけました。

在所者が、「大人と初めて話をして答えてもらった。」「自分の話を丁寧に聞いてもらった。」「だめなことは、だめと注意してもらった。」「初めて本を最後まで読んだ。」「などなど少年たちの言葉を聞いて、どんな環境で育ったの



だろうか心が痛みました。すべての子供たちが、明るく健康でたくましく成長することが願いです。私たちにできることは、この願いをしっかり持つて、機会を逃さず、支えられる大人でありたいと思いました。 N.K



子育てフェスティバル  
in いみずに参加して

7月15日午前10時より、大島社会福祉センターにおいて「子育てフェスティバル in いみず」が開催されました。

長井教育長はじめ来賓の方々との挨拶で始まり、ステージでは子供たちによる、バレエ、歌、バイオリン演奏等が披露されました。また、フロアでは、バルーンアート、リースづくり、牛乳パックを使って獅子頭づくり等のコーナーが設けられ、多くの親子連れが思い思いに制作する姿が見られました。



射水市更生保護女性会のコーナーでは、「社会を明るくする運動」に一役買っているマスケットキャラクター「更生ちゃん」の大きなぬいぐるみがテーブルの上に



置かれ、訪れた親子連れが、高校生のボランティアの指導を受けながら、透明ファイルに油性マーカーでホゴちゃん、サラちゃんを描き、ホゴちゃんファイルづくりを楽しみました。

M T



受賞おめでとうございます

- 日本更生保護女性連盟会長表彰  
道古 正子
- 中部地方更生保護委員会委員長感謝状  
小井 孝子
- 中部地方更生保護女性連盟会長表彰  
川口 泰子
- 富山県保護観察所所長感謝状  
高野まさ子 油野美年子  
川筋 春子 吉野 照子

今日の良き日に  
感謝状をいただいて

紅葉の美しい頃でした。思いますと、小井会長より受賞の内示案内を受けました。どうして私が、自分が、と思いき直迷いが大きいのと、びつくりして不安でいっぱいでした。その内家族の祝福に背中を押され、私には身に余る光栄だと思ったとき、うれしさでいっぱいになり、受賞のその日まで過こしてきました。

当日、仏壇に朝のお参りをし、川筋家の逝った先人にも手を合わせ報告しました。そして、若くして逝った私の両親や育ててもらった方たちに思いをはせた時、ここに来て繋がりを持った方々に感謝した朝でした。

自分なりに緊張し厳粛な思いでバスから降り、会場について顕彰式の横断幕と金屏風が見えた時、更生保護女性会の皆さんのお力添えがあったからこそと思いき感無量でした。今後も更生保護の心を理解して活動していきたいと思えます。

H K

**そうめん売上収益金 9万6千円**

お陰様で、30年度も多くの方々のご尽力により、売上収益金を地区更生保護女性会の活動支金に充当させていただきました。

皆様の多大なるご協力に心より感謝申し上げます。



射水市更生保護女性会だより

# 「一般社団法人射水市更生保護協力会」

副会長 谷川 義昭

平成30年4月24日に射水市更生保護協力会の臨時総会が開かれ、更生保護協力会が一般社団法人になることを全員一致で賛成承認されました。

7月13日に第1回の定期総会が開催され、名誉会長には夏野元志射水市長、会長に加治秀夫氏、副会長に串田伸男氏、同じく江尻昭保護司会長、そして事務局長に大濱晴彦氏が選ばれ、一般社団法人としてスタートしました。

ここまでの経過を報告します。射水市更生保護協力会の前身は「新湊市更生保護事業協会」という名称で、企業の皆様方の協力支援により、合併後は射水市に替わり、今回は更に進化を上げて、一般社団法人となりました。

協賛企業は現在市内全域で87社あり、暖かい支援をいただいておりますことを、心より感謝申し上げます。

一般社団法人化したことにより、どのような変化があったのかを紹介しますと、まず、会の目的が公益事業として認められ、活動範囲は広くなりました。

要約すると、①更生保護に関する事業の充実発展に寄与する②非行や罪を犯した人および社会的弱者の自立更生を支援する③犯罪予防活動や個人及び

公共の福祉増進に貢献する、などです。

また、保護司会とのかかわりですが、今まで通り、保護司は全員が正会員であり、更生保護女性会や賛助会員の中から理事を選んでいただき、保護司会員と賛助会員が協力して運営していくこととなります。

更に支援企業を増やして、会費も、企業の訪問はもちろん、できるだけ振込方式に変更することを考えています。将来的には公益社団法人として認められたいとの希望があります。

道半ばですが、ここまで立ち上げていただきました、江尻会長以下設立役員の皆様方のご苦勞に対して、深く感謝申し上げますとともに、会員の皆様方には今後ともご協力よろしくお願い致します。

## ミニコラム

1999年(平成11年)は、更生保護制度施行50周年の年でした。



「人はみな  
生かされて  
生きてゆく。」

このシンボルマークと標語は、更生保護ネットワーク50周年を記念して作られたものです。

シンボルマークは甲骨文、金文の「生」をモチーフとしたもので、樹木の芽がのびていく様を表現しています。

シンボルマークに添えられたキャッチコピーは、「人はみな 生かされて 生きてゆく。」人の生き方にかかわることは、生きる苦悩や哀しみを共にすることに他なりません。そして、その果てによりやく発見できるもの、それは人によって「支え、支えられる」人間の喜び。すなわち「生かされて生きる」喜びではないでしょうか。

(更生保護制度施行50周年記念誌より)

## サポートセンターだより

佐伯 日登美

庭の片隅に清楚な花を咲かせて季節を運ぶ水仙。雪に折れることなく凛と立つて嬉しい。草花を愛して地域の花壇を仲間と丹精して20年。春から晩秋まで盛りを誇る自慢の花ロード。大切なのは土づくりと適正な肥料と水管理。

悔いのない人生には、確かな温もりと時には叱責。大切な時期の人間関係を後押しする保護観察に同じ事例はなく、刑は同じでも対象者のかかわりで異なる。向かい合うときは1対1であり、将来を正して行く過程で重要な時間を有する。

初めて対応した少年は、初回親と一緒に面接し互いに緊張。回を重ねて性格が見え少しのゆとりを感じた頃に面接を欠席したが以後順調。毎

回事件に触れざるを得ないのが複雑な心境ながら、少年が遵守事項を守ることが大事と腹を括る。無事終了して1年も経過した頃に偶然出会った親族に「あの頃はお世話になりました」と声を掛けられたときの嬉しさは忘れられない。

今回の対象者は、サポートセンターで面接を終え記録を取った後、心中のこだわりを駐在保護司さんとの会話の中で、ヒントやアドバイスをいただいたと思う。何度か就労支援の斡旋をお願いして、会社の人事担当の方との話し合いもし、実際に就労支援に結びつかなかつたのは、現実と知らされたりもした。担当を終えるとその後の状態は把握できてはいないが、上手に立ち直ってほしいと願っている。

「社会を明るくする運動」作品は年々参加数が増加し、関心が広がっていることは素晴らしい。頼もしい大人になつてと未来を託したい。

新しい年に新しい心でこれからも臨んで行きたいと思う。支えつつ、支えられるながらのボランティアの気持ちで。



# 各部会活動報告

## ◆ 総務部会

総務部会は理事会（正副会長・各正副部長で構成）を兼ねて職掌し、研修・保護観察、地域活動、協力組織、学校、広報の部会が掌握しない行事や事務および関係機関との連絡調整を行っています。

## ◆ 研修・保護観察部会

今年度の定例研修も3回が終わり残すところ1回となりました。定例研修会に引き続き行っています自主研修では、これまでに続き研修の柱として保護司の皆さんにフリーテーマで話をしていたいておりますが、お願いしても快く引き受けていただけなのが現状です。普段話す機械のないお互いを知る上で大変有意義な研修だと思っておりますので、ご理解ご協力いただきますようお願いいたします。

## ◆ 地域活動部会

6月13日に、富山県保護司会連合会の地域活動部会協議会が開催され、学校と保護司の連携について、各地区の状況が確認された。

7月8日に、富山県薬物乱用防止

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会からの協力依頼により、「アルプザ小杉」での街頭キャンペーンに参加しました。その後、7月16日、海王丸パークでの第68回「社会を明るくする運動」街頭宣伝活動に会員、更生保護女性会等の皆様のご協力をいただき、無事地域活動部会としての活動を終えることができました。

## ◆ 学校部会

11月24日、高周波文化ホールで第68回「社会を明るくする運動」射水市作品コンテストの表彰式が行われました。市内小・中学校から応募された作文、ポスター、標語から、優秀作品35点が選ばれ、射水市推進委員長の夏野元志市長より賞状と副賞が贈られました。優秀作品は射水市庁舎に展示し、表彰式当日は表彰式会場に展示して、多くの方に観ていただきました。

## ◆ 協力組織部会

この作品コンテストが、児童生徒の一人ひとりが非行や犯罪のない明るい社会づくりについて考えるきっかけになることを願っています。

平成30年9月12日、ポルファートとやまにおいて、平成30年度第1回協

力組織部会協議会が開催されました。「保護司・更生保護女性会・BBS会員」の三者連携の意義についての講義の後、各地区保護司会における連携活動の実情について事例発表がありました。連携を図る上での課題や今後の方策についても協議されました。各地区保護司会同士でイベントを通して連携を図ることや、ニーズの掘り起こし等、ゆるやかなシステム作りの必要性が提起されました。



## ◆ 広報部会

- 10月10日・12月14日・1月15日 県広報編集委員会
- 1月25日 県「広報部会」協議会
- 1月末 作品集発行
- 2月初旬 射水更生保護26号発行
- 3月15日 県広報編集委員会



## 平成30年度 受章・表彰者紹介

(順不同・敬称略)

### ○ 法務大臣表彰

谷川 義昭

### ○ 更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰

眞岸 勝彦

### ○ 富山県知事表彰 (部門功労)

江尻 昭

### ○ 中部地方更生保護委員会委員長表彰

佐賀あさ子 廣瀬 秀昭

### ○ 中部地方保護司連盟会長表彰

坂井 敏政 山崎 次平

### ○ 富山保護観察所長表彰

高田 大介 棚田 孝

### ○ 富山保護観察所長感謝状

池内 興舟 片林 政敏

栗原 彰

(家族功労者) 塚本 明美

### ○ 富山県保護司会連合会長表彰

五十嵐枝折 池松 光春

表 隆夫 河畑富美子

中田 政一 林 美貴子

平野 洋子

### ○ 社会福祉協議会会長表彰

富岡 民生

### ○ 射水市市政功労表彰

龍本 茂樹

### ○ 保護司特別功労章

米澤 治夫 (名誉保護司)

### ◆ 瑞宝双光章 (危険業務従事者叙勲)

室田 清一

射水保護司会事務局日誌

8月21日 第2定期例研修・自主研修

8月30日 射水更生保護第25号発行

9月10日～11日 市作品コンテスト審査会  
9月27日～28日 更生保護協力会会員企業訪問

10月16日 保護司指導力強化研修

10月24日 保護司処遇基礎力強化研修

10月25日 中部地方保護司代表者協議会

11月22日 薬物乱用防止教室(作道小)

11月24日 市作品コンテスト表彰式

12月4日 第3定期例研修・自主研修

12月5日 県保連 総務部会協議会

12月7日 加賀保護司会来訪

12月11日 保護司会・更生保護女性会・BBS三者連携強化研修会

12月20日 新任保護司事例伝達・研修

12月27日 企画調整保護司打合せ会

〈平成31年〉

1月11日 薬物乱用防止教室(片口小)

1月15日 社会貢献活動

1月16日 薬物乱用防止教室(太閤山小)

1月22日 薬物乱用防止教室(東明小)

1月24日 薬物乱用防止教室(大門小)

1月25日 薬物乱用防止教室(堀岡小)

保護司候補者検討協議会

県保連 広報部会協議会

2月5日 第4定期例研修・自主研修

2月6日 新任・退任保護司歓送迎会

**保護司の異動(敬称略)**

◆新任保護司  
青雲 乗英(平成30年12月20日付)

◆退任保護司  
高島 辰夫(平成30年1月31日付)  
長徳 一(平成30年1月31日付)  
旭 邦彦(平成30年12月19日付)

ご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

◆名誉保護司  
岩口 和義(平成30年10月)

◆元射水保護司会長  
棚元 理一(平成30年12月)



2月13日 薬物乱用防止教室(歌の森小)

薬物乱用防止教室(小杉小)

薬物乱用防止教室(大島小)

3月13日 第4回理事会

3月16日 新任保護司研修懇談会

3月28日 企画調整保護司打合せ会

※この他年4回の理事会と年12回の三役会を開催しています。

退任に寄せて

旭 邦彦

私は平成12年12月20日に、地域の先輩の退任に伴って保護司をお引き受けしました。そして2年間の定年延長を経て今年退任致します。

私が現役の時に担当する部署に、新湊市保護司会の事務局がありましたので、保護司としての役割は少し理解していたつもりでした。保護司法第3条には、「対象者の再犯を防ぎ、犯罪や非行をなくし、その改善更生を図ることを目的」として、指導監督することとあります。この使命の重大さを少し理解することができたように思っていたのです。

しかし、初めて保護観察の対象者を担当すると、改めて「保護観察とは何か」を考えさせられました。あるとき、平成生まれの少女を担当しました。思春期の少女は、私が想像する以上に周囲の環境から影響を受け

らと思われました。もちろん、現在の私には、平成生まれの女の子の気持ちなどわかりようがありません。担当した少女が、私の家に来訪する時間帯は、毎回午前10時前後でした。保護観察のための来訪であるにもかかわらず、変なうわさが広まって大変困惑したことがありました。幸い、短時間で皆さんに理解していただくことができ、私が担当した中でも一番印象に残り、引き受けて良かったという思い出があります。

微力な私でありましたが、保護観察対象者とともに歩むことは、保護観察の原則に立ち返って厳格な姿勢と慈愛の精神が必須の条件であると思っています。最後になりますが、射水保護区保護司会のご発展をお祈りしまして、終わりとします。

編集後記

今上天皇が4月30日に退位され、翌日5月1日に皇太子殿下が新天皇に即位、新元号が施行され、平成という元号が幕を閉じる。

近年少子化が進み、子どもたちの遊ぶ姿をあまり見かけなくなりましたが、私の自治会には子ども達と書道や学習を通じて交流を図る寺子屋という土曜塾がある。犯罪や非行が生まれるのは、家庭環境のみならず学校や地域との関係性が大きく影響する。少なくとも、寺子屋からは非行に走る子どもがいないと信じている。

松長記